

2020年度

四天王寺大学看護学部・看護実践開発研究センター事業

「コロナとともに～コロナによる看護職の不安・うつへの対応～」

国内外で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）数は増え続けているが、その対応、重症度に応じた治療と看護ケアは継続しています。COVID-19を含む災害後には、被災者兼支援者のうつ/心的外傷後ストレス反応が悪化し、休職や離職者数も増えることが報告されています（Brooks, 2016）。特に、COVID-19による治療システムの大きな変化は、看護職の疲労、不安や抑うつを促進しています。

そこで、本センターでは、コロナにより影響を受けた看護職の不安やうつを軽減するための相談窓口を設置し、看護職のこころの健康を促進する事業を実施することになりました。

これまでのコロナに関する講演事業に引き続き、看護職の支援事業を下記の内容で実施しますので、ぜひとも、多くの皆様にご参加頂ければと思います。

電話およびメール、オンラインで実施します。

1. 対象者：コロナ対応に関心のある看護職で自分や家族の生活、セルフケア、スタッフ、部下への対応等について検討したいと考えている方々。
2. 日時：2020年11月以降、随時
3. 相談対応者：宇佐美しおり（四天王寺大学看護学部・看護実践開発研究センター長、精神看護学教授、精神看護専門看護師）
4. 電話窓口：072-959-2437（直通）
5. メール窓口：[susami@shitennoji.ac.jp](mailto:susami@shitennoji.ac.jp)  
\*受付時に日時を調整します
6. 実施方法：オンラインにて1回約30分